

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願ひいたします。



熊本県酪農業協同組合連合会

代表理事会長

隈 部 洋

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

会員・酪農家・関係機関の皆さまには、旧年中のご支援、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、やはり新型コロナウイルス感染症に社会生活は翻弄され、若年層への感染拡大や第7波では新規感染者数が過去最高になるなどまだ平穏な日常を感じ得ない1年でした。また、政府は自粛要請などの行動制限もなく、「全国旅行支援」の実施や入国者数の上限撤廃など新型コロナウイルス対策を緩和しておりコロナとの共存を模索しています。

世界に目を向けますと、2月に発生したロシアのウクライナ侵攻は長期化しており、一昨年からの輸入飼料価格の高止まりや、円安とも相俟って原油や石炭が高騰しており電力等資源の値上がりにも拍車をかけています。

さて、現在コロナ禍や円安などの影響を受け、全国の酪農家は今までに経験したことのない酪農危機という非常に厳しい状況を迎えています。新型コロナ感染拡大により業務用牛乳・乳製品の消費量減少から乳製品の在庫量が積み増し、特に脱脂粉乳は過去最高の在庫を抱えることとなりました。このようななか、昨年11月に飲用向け乳価は10円/kgの値上げが行われ、9年ぶりとなる期中改定となりました。酪農家の実情をご理解いただくため牛乳価格の引き上げをお願いしたところであります。現在のところ、おかげさまでらくのうマザーズ製品は消費の落ち込みもなく消費者の皆様にはご理解賜り感謝申し上げます。

さて、昨年の生乳生産量は、ご存じの通り全国的に抑制対策により減少傾向で推移し、コロナ禍による消費の落ち込みもあり需給緩和が続いています。生乳販売一体となった取り組みや国の生産抑制への支援もいただいておりますが、生乳は簡単に増やしたり減らしたり

ができませんので、牛乳乳製品の安定供給には生乳生産基盤の維持が不可欠であります。

このような状況下、本会としましては、飼料高騰、素牛価格の下落等外的要因による酪農家の経営圧迫に対する支援をするため、独自に「酪農経営継続緊急支援」や「配合飼料緊急対策」などの施策を決定しました。配合飼料や粗飼料の対策に加えて乳量に基づく支援を行い、少しでも熊本の酪農家の方々に酪農を継続していただきたいという思いです。皆様の積極的な事業の活用をお願いいたします。

本年は第11次中期経営計画の2年目となります。酪農家の経営安定回復を第一義とし、事業推進に努めてまいります。また、工場敷地内では倉庫や組合事務所の建設など整備を進め、老朽化し手狭になった冷蔵施設更新に向けての準備を始めております。

なお、阿蘇ミルク牧場においては、コロナ感染拡大による影響を大きく受けましたが、入場者もコロナ禍前までほぼ回復しており、本年も引き続き酪農の理解醸成施設としての役割を果たしていきます。牛舎増改築と新たな搾乳システムの導入により乳量も増えており、牛乳工場でのプラボトル品の製造や乳製品販促により外部販売にも力を入れてまいります。

今年始まったばかりで来年の話とはなりますが、2024年は、熊本県酪連創立70周年の年です。また、1974年に生産者出資による工場建設から50年の節目の年を迎えます。これもひとえに皆様方のおかげであります。今後も熊本酪農の発展のため、生産者の皆様と一体となり事業に邁進していきたいと思っております。

酪農を取り巻く状況は、飼料の高騰や需給緩和、酪農家の高齢化、後継者不足など様々な問題が山積しております。厳しい酪農経営環境ですが、必ずや回復の日はやってくると私は信じています。この酪農生産基盤を守り将来につなげるため、本年も会員・生産者、関係各位のご協力をいただきながら、役職員一丸となりまして、生産者の皆様の負託に応えられる事業展開を図ってまいります。今後とも、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を心から祈念し年頭の挨拶といたします。



熊本県知事

蒲島 郁夫

新年おめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会におかれましては、日頃より県政の推進に御理解と御協力をいただきますとともに、酪農・乳業の振興を通じ地域経済の活性化と産業の発展に御尽力いただき、心より感謝申し上げます。

本県は、全国第3位の生乳生産量を誇る西日本最大の酪農県であり、乳製品は本県農業産出額の1割を占める主要品目となっていることは、酪農家の皆様と貴連合会をはじめとする関係者皆様の不断的努力の賜物であると深く敬意を表します。

昨年は、コロナ禍にある中、ウクライナ侵攻による穀物等の世界的な高騰と急激な円安、国内の生乳需給緩和により、酪農経営は多大な影響を受けました。厳しい経営環境を踏まえ、県では、国の施策とも連携し、独自の飼料価格対策や自給飼料増産の緊急の措置を進めたところです。

本県では、熊本地震、コロナ禍、令和2年7月豪雨災害と度重なる困難を受け、経済、感染症、災害、食

料、地球環境の「5つの安全保障」の確立にチャレンジしていくことを掲げています。コントラクターの組織化やTMRセンター設立など、国土に根差した自給飼料生産基盤の拡大を先進的に取り組んでいただいていることは、「食料の安全保障」に大きく貢献されているものと認識しています。

また、とうもろこしの二期作や稲WC Sの活用など、地域条件に適した自給飼料生産を引き続き推進しておられることは、今回の飼料高騰の影響を少なからず緩和していくものと期待しております。

さらに、貴連合会が積極的に推進しておられる牛乳輸出についても、年々出荷量が伸びており、着実に実績を積み上げられております。また、搾乳ロボットなどICT技術を活用したスマート農業技術の導入は、酪農の分野が最先端を走っており、これからも加速していくものと思っております。

私の信念は『逆境の中にこそ夢がある』です。厳しい経営環境にありますが、国土保全や食料安全保障につながる自給飼料の生産拡大、牛乳の輸出、スマート農業技術の導入による生産性向上など、これまで取り組まれてきたことを、更に高めていくことが重要です。

日の短い今季節は、朝の搾乳作業が終わられた頃、日の出の時間が訪れます。闇夜から明るい温かな日差しが差し込むように、経営環境も必ずや好転します。それに向かって県も皆様と共に最大限の努力を尽くして参ります。

最後になりましたが、新しい年が皆様方にとりまして、実り多き年となりますことを心から祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。



全国酪農業協同組合連合会

代表理事会長

隈部 洋

新年明けましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農家の皆様、そして役職員の皆様におかれましては、日頃より弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和5年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて昨年一年を振り返りますと、国内での新型コロナウイルスへの感染者が確認されてから3年が経過しましたが、依然として収束の道筋は見えずにいます。またロシアによるウクライナ侵攻により資源価格が高騰し、さらに約32年ぶりの歴史的な円安も加わり、配合飼料を始め粗飼料、肥料、燃料などあらゆる生産資材価格が高値となりました。

このような情勢の影響を受け酪農経営は未曾有の苦境に陥っており、また、牛乳・乳製品の需要減退による生乳需給の緩和によって生産抑制が進められました。先行きが見通せない状況から廃業を決断せざるを

得ない酪農生産者の声も多く聞かれるようになり、想定していた以上に生乳生産が減少しています。生産コストの上昇分が乳価に反映されなければ酪農生産者としてはモチベーションの維持は難しく、直面する酪農経営の厳しさと共に、将来の生乳生産基盤を維持できるのか、危惧しているところでもあります。

こうした中、全酪連としましては全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、搾乳用後継牛確保のための販売預託事業や酪農経営の生産性向上の支援、(一社)全酪アカデミーの活動を通じた後継者確保・育成の支援などの諸施策を引き続き遂行していくとともに、現在過剰となっております乳製品在庫の削減に向け取り組んでまいります。

また、全国酪農青年女性会議の中村俊介委員長と共に理解醸成活動に取組み、コスト上昇分を適正に価格転嫁できるように消費者の理解醸成に努めてまいります。

明けない夜はありません。酪農生産者の皆様に寄り添いながら、現在の困難な状況に対応するのはもちろんのこと、その先のことも見据え、持続的な酪農生産基盤の構築に尽力する所存であります。

最後になりますが、熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農家の皆様、そして役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。